

平成 25 年度事業報告書



社会福祉法人 双樹会

目 次

法人本部	2
事業所別実績報告	
特別養護老人ホーム 陽光の家	6
陽光の家 短期入所生活介護事業所	14
陽光の家 通所介護事業所	16
陽光の家 訪問介護事業所	19
陽光の家 居宅介護支援事業所	22
広島市城山・五日市観音地域包括支援センター	25

【法人本部】

1. 役員の状況

平成 25 年 8 月 8 日が理事・監事・評議員の任期満了日となるため、5 月 25 日開催の第 1 回理事会・評議員会において理事・監事・評議員の改選についての審議を行い、理事定数 6 名・評議員定数(理事兼務を含め)13 名・監事定数 2 名、各々承認を得た。任期は、平成 25 年 8 月 9 日より平成 27 年 8 月 8 日迄の 2 年間。平成 26 年 3 月 31 日現在、理事 6 名・評議員 12 名(1 名欠員)・監事 2 名。

2. 理事会・評議員会・法人内監査の開催状況

I. 理事会

回	日時	場所	議案	出席状況 上段:理事 下段:監事
1	H25.5.25 16:20～	ナカムラ病院 研修室	(1) 平成 24 年度事業報告(案)について (2) 平成 24 年度決算(案)について (3) 評議員の改選について (4) 就業規則の変更について	5/6 1/2
2	H25.8.8 18:50～	広島サンプラザ	(1) 理事長の選任及び理事長職務代理者の指名について (2) パソコン及び介護保険ソフトの購入について (3) 法人運営に関する情報開示について	5/6 2/2
3	H26.3.29 14:50～	ナカムラ病院 研修室	(1) 平成 25 年度補正予算(案)について (2) 経理規程の改訂について (3) 平成 26 年度事業計画(案)について (4) 平成 26 年度予算(案)について	6/6 2/2

II. 評議員会

回	日時	場所	議案	出席状況
1	H25.5.25 15:00～	陽光の家 研修室	(1) 平成 24 年度事業報告(案)について (2) 平成 24 年度決算(案)について (3) 理事・監事の改選について (4) 就業規則の変更について	12/13
2	H25.8.8 18:20～	広島サンプラザ	(1) パソコン及び介護保険ソフトの購入について (2) 法人運営に関する情報開示について	12/13
3	H26.3.29 13:30～	ナカムラ病院 研修室	(1) 平成 25 年度補正予算(案)について (2) 経理規程の改訂について (3) 平成 26 年度事業計画(案)について (4) 平成 26 年度予算(案)について	12/12

III. 法人内監査

日 時：平成 25 年 5 月 14 日 午前 9 時 30 分より

場 所：特別養護老人ホーム 陽光の家 相談室

監査資料：事業実績報告書、収支計算書、事業活動計算書、仕訳伝票、預金残高証明書及び預金通帳、貸借対照表、財産目録、総勘定元帳

3. 職員研修実施状況

I. 施設内研修一覧

日付	研 修 名	講師・発表者	人数
4/25	H25年度事業計画 説明会	施設長	30
5/23	介護保険制度（基礎編）	居宅事業所管理者	10
6/19	介護保険制度（実践編） 「悪徳商法について」	事務担当者 地域包括 社会福祉士	29
6/25	実践介護技術「トランスファーについて」	理学療法士	23
7/9	事例発表「外出支援への取り組み」	特養 介護職リーダー	22
7/23	ケアマネジメント演習 福祉用具商品勉強会	介護支援専門員 3名 協力業者 担当者	26 18
8/20	事例発表「地域包括の役割 権利擁護他」	地域包括 社会福祉士	27
9/13	接遇マナー研修	外部講師	43
9/20	接遇マナー伝達研修（9/13欠席者用）	9/13研修受講者	13
9/20	中国地区老人福祉施設研修大会 報告会	研修大会参加者 3名	28
10/15	食中毒・感染症予防研修会	特養 看護職	22
10/30	事例発表「入浴拒否者へのアプローチ」 事例発表「障害者夫婦への支援」	通所 介護職 訪問介護 サービス担当責任者	19
11/12	リスクマネジメント研修	事務長	20
11/22	実践介護技術②「トランスファーについて」	理学療法士	13
11/27	養介護施設従事者等による高齢者虐待の防止について	外部講師（社会福祉士）	25
12/10	事例発表「家族・医療・介護チームで取り組んだ居宅生活の継続」 事例発表「経管栄養剤の選択」	居宅 介護支援専門員 給食 管理栄養士	21
1/28	事例発表「認知症介護実践者リーダー研修の施設での事例研修について」	特養 介護職	19
2/20	ターミナルケア	特養 看護職主任	18
2/27	認知症介護指導者研修 研修報告会	特養 介護職リーダー	18
6/20	特養勉強会①「食事介助・基礎編」	特養・介護職リーダー	6
7/4	特養勉強会①「食事介助・基礎編」2回目		5
8/22	特養勉強会②「排泄介助・基礎編」		9
10/25	特養勉強会③「認知症について・基礎編」		6
2/11	特養勉強会④「入浴介助・基礎編」		5

日	研修名	講師	人数
7/18	初級研修「良好な人間関係を構築するために～実践すべきこと」	外部講師： ㈲コンサルティングブレイン 縫部 毅 氏	7
8/22	5年目研修「良好な人間関係を構築するために～リーダーの役割」		5
9/12	人事考課実施手順及び中間面接レビューの進め方		13
12/19	7年目研修「自己成長目標を考える～自己成長計画の立て方～」		6
1/9	平成26年度経営計画策定研修		11
2/13	考課者研修 正しい考課とFB 目標設定と人事考課の関係		13

II. 施設外研修受講一覧(抜粋)

時期	研修名	実施機関	人数	職種
5/22,23	平成25-26年度戦略勉強会「新成長産業としての介護」	全国老人福祉施設協議会	2	施設長・居宅管理者
5~12月	広島県介護支援専門員 更新研修課程 I II	広島県シルバーサービス振興会	4	居宅 介護支援専門員
通年	広島市認知症介護実践研修「実践者研修」	広島市老人福祉施設連盟	5	特養 介護、看護、相談員
通年	広島市認知症介護実践研修「実践者リーダー研修」	広島市老人福祉施設連盟	1	特養 介護
7/22	施設サービス計画研修会	広島市介護保険課	1	特養 介護支援専門員
7~3月	平成25年度広島県主任介護支援専門員研修	広島県介護支援専門員協会	1	包括 介護支援専門員
8/28	介護福祉施設のための労務管理講習会	広島労働局労働基準部	1	事務長
8/29,30	中国地区老人福祉施設研究大会	中国老人福祉施設協議会	3	特養 介護、看護、相談員
9/5	自衛消防訓練に係る防火講習会	広島市消防局	1	事務長
9/18,19	現場の声が制度をつくる 中村博彦氏の遺志を継ぐ	全国老人福祉施設協議会	1	施設長
9/20	施設介護サービスの質の向上についての情報交換	広島市老人福祉施設連盟	1	特養 介護支援専門員
9~12月	介護支援専門員実務従事者基礎研修	広島県シルバーサービス振興会	1	居宅 介護支援専門員
9月	平成25年度介護福祉士実習指導者講習会	日本介護福祉士会	1	特養 介護
9,10月	平成25年度第2回認知症介護指導者養成研修	認知症介護研究・研修仙台センター	1	特養 介護
10/3,4	平成25年度地域包括支援センター職員現任研修	広島市高齢福祉課	1	包括 センター長
12/20	介護予防ケアマネジメント従事者研修	広島市介護保険課	1	居宅・包括 介護支援専門員
2/7	広島市認知症アドバイザー養成講座	広島市高齢福祉課	1	特養 介護
2/13	高齢者虐待対応スキルアップ	広島県地域包括ケア	2	包括 社会福祉士
2/14	認知症地域資源連携検討事業地域普及セミナー	広島市高齢福祉課	1	包括 保健師
3/9	通所介護における運動指導の実践	株式会社ファイネス	1	通所 機能訓練指導員
3/14	平成25年度広島市認定調査員現任研修	広島市介護保険課	6	特養・居宅・包括 介護支援専門員

4. 実習生受入れ状況

前年度 8 団体 29 人から 6 団体 30 人へ。平成 24 年度は、福祉系専門学校からの受入れが 6 校あったが、平成 25 年度は、各校とも受入れ枠は設定したが、当施設での実習希望者がなかったため 3 校に減少している。

	実習依頼先	実習期間	人数	備考
1	広島福祉専門学校	H25.7.16~H25.7.23	2	介護福祉士1年
		H25.8.28~H25.9.4	2	介護福祉士2年
		H25.10.28~H25.11.9	2	介護福祉士1年
2	トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校	H25.8.26~H25.9.7	2	介護福祉士1年
		H26.2.3~H26.2.15	1	介護福祉士1年
3	IGL健康福祉専門学校	H25.6.10~H25.6.22	1	介護福祉士1年
		H25.10.21~H25.10.26	1	介護福祉士2年
		H25.11.25~H25.12.7	1	介護福祉士1年
4	企業組合 労協センター事業団	H26.1.31~H26.2.7	5	介護初任者研修
5	福祉キャリアセンター	H25.3.26~H25.4.25	6	訪問介護員2級
		H25.6.12~H25.6.27	5	訪問介護員2級
6	介護労働安定センター	H26.1.14~H26.1.16	2	介護初任者研修
合計		6団体	30	人

5. ボランティア受入れ状況

【定期】

活動	部署	活動日時
生花クラブ	特養・通所	毎月 1 回
書道クラブ	通所	毎月第 4 火曜日
施設・園庭清掃		4 月 7 日
喫茶	特養	毎週火曜日
シーツ交換	〃	毎週月曜日

【演芸】

来園日	内容	合計人数
5/19、12/14	歌・踊り	14 人
6/10	日本舞踊	1 人
7/23	介護体操	14 人
7/27 (夏祭り)	和太鼓演奏	10 人
7/27 (夏祭り)	ひょっとこ踊り	12 人
8/10,12/18	大正琴	5 人
9/8 (敬老会)	手品	1 人
10/21	歌・踊り	14 人

6. 家族介護教室の開催

平成 25 年度広島市受託家族介護教室として、以下のとおり 2 回開催。

➤ 第 1 回

日 時：平成 25 年 7 月 28 日(日) 10:00～11:30

場 所：特別養護老人ホーム 陽光の家

内 容：介護者のためのころばぬ先の転倒予防教室

講 師：特別養護老人ホーム陽光の家 理学療法士

参加者：10 人(介護家族：7 人 近隣援助者等：2 人 入所者：1 人)

➤ 第 2 回

日 時：平成 25 年 11 月 28 日(木) 10:00～11:30

場 所：特別養護老人ホーム 陽光の家

内 容：認知症の人の接し方

講 師：特別養護老人ホーム陽光の家 ユニットリーダー(認知症指導者研修修了)

参加者：16 人(介護家族：9 人 近隣援助者等：7 人)

事業所別実績報告

1. 特別養護老人ホーム 陽光の家

1. 入所者の状況

(ア) 年間入所者の推移

25 年度の年間入退所数は 10 人。退所者の内訳は、死亡退所 6 人(4 人が施設において看取り、2 人は協力病医にて死亡)、長期入院による退所 3 人、在宅復帰 1 人(要介護 2 より要支援 2 に改善)となった。前年度対比 2 人増。延べ利用者数は、特養入所者 17,771 人、空床 479、内 175 を短期入所として利用、合計 17,946 人で前年度より 19 人増。稼働率は、98.3%で前年度 0.1%増加し、1 日当たり 49.2 人が利用したこととなった。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
月末在籍数	50	50	48	50	50	50	50	50	50	50	49	50	
入所	2	1	0	1	1	0	1	0	0	1	1	2	10
退所	2	1	0	1	1	0	1	0	0	2	1	1	10
延べ利用者数	1,436	1,544	1,480	1,506	1,523	1,500	1,521	1,470	1,516	1,489	1,319	1467	17,771
空床利用	12	0	0	3	5	0	4	26	10	5	53	57	175
合計	1,448	1,544	1,480	1,509	1,528	1,500	1,525	1,496	1,526	1,494	1,372	1,524	17,946
25年度	96.5	99.6	98.7	97.4	98.6	100.0	98.4	99.7	98.5	96.4	98.0	98.3	98.3
1日平均実績	48.3	49.8	49.3	48.7	49.3	50.0	49.2	49.9	49.2	48.2	49.0	49.2	49.2
前年度実績	1,489	1,529	1,472	1,524	1,515	1,465	1,520	1,460	1,519	1,503	1,400	1,531	17,927
対比	▲ 41	15	8	▲ 15	13	35	5	36	7	▲ 9	▲ 28	▲ 7	19

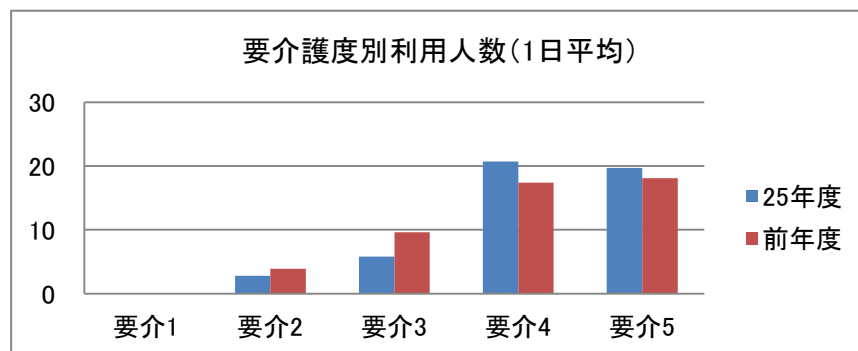
空床の内訳は、以下のとおり。入院は帰園できた者、死亡退所は死亡日翌日から次の入所者の入所前日までの日数。年間入院者は 9 人、うち帰園できた入院者は 4 人であった。

	外泊	在宅復帰	入院	入院退所	死亡退所	合計
25年度	3	20	195	225	36	479
前年度	2	0	131	221	71	425

(イ) 要介護度別利用者人数(1日平均)

平成 26 年 3 月末現在、50 名の入所者のうち 41 名が要介護 4 以上。年間平均介護度は、4.20 で前年より 0.17 高くなり重度化が進んでいる。

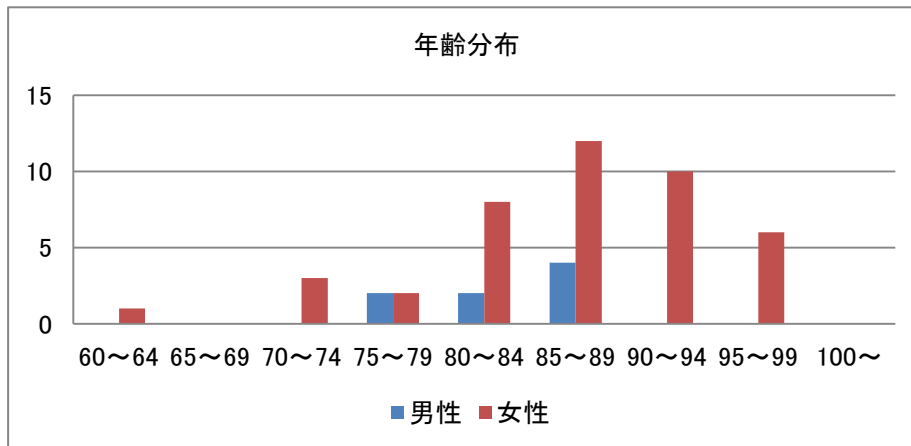
	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計	平均介護度
25年度	0	2.8	5.8	20.7	19.7	49.0	4.20
前年度	0.1	3.9	9.6	17.4	18.1	49.1	4.03
対比	▲ 0.1	▲ 1.1	▲ 3.8	3.3	1.6	▲ 0.1	0.17



(ウ) 入所者年齢別及び平均年齢（平成 26 年 3 月末日現在）

男性と女性の入所人数は、前年と同じ。平均年齢は、87 歳 5 ヶ月から 86 歳 11 ヶ月へ若干下がり、最高年齢者は女性で、98 歳 7 ヶ月から 99 歳 2 ヶ月となった。男性の最高年齢は、87 歳 2 ヶ月であった。

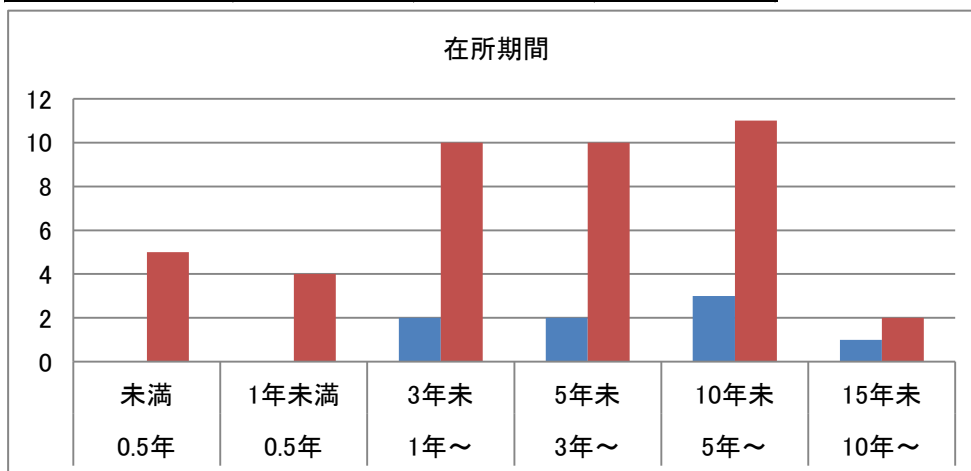
歳	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計	平均
男性	0	0	0	2	2	4	0	0	0	8	83歳2月
女性	1	0	3	2	8	12	10	6	0	42	87歳7月
合計	1	0	3	4	10	16	10	6	0	50	86歳11ヶ月
最高年齢	99歳2ヶ月			最小年齢	63歳8ヶ月						



(エ) 入所者在所期間（平成 26 年 3 月末日現在）

平均在所期間は、前年度の平均在所期間 3 年 8 ヶ月から 3 年 10 ヶ月へ 2 ヶ月伸びた。最長在所者は女性で 11 年 3 ヶ月、前年度と同一人であったため、1 年在所期間が伸びた。男性は、10 年 2 ヶ月が最長。

期間	0.5年未満	0.5年～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	合計	平均
男性	0	0	2	2	3	1	8	5年1ヶ月
女性	5	4	10	10	11	2	42	3年7ヶ月
合計	5	4	12	12	14	3	50	3年10ヶ月
最長在所	11年3ヶ月		最短在所	0ヶ月				



(オ) 保険者別人数 (平成 26 年 3 月末日現在)

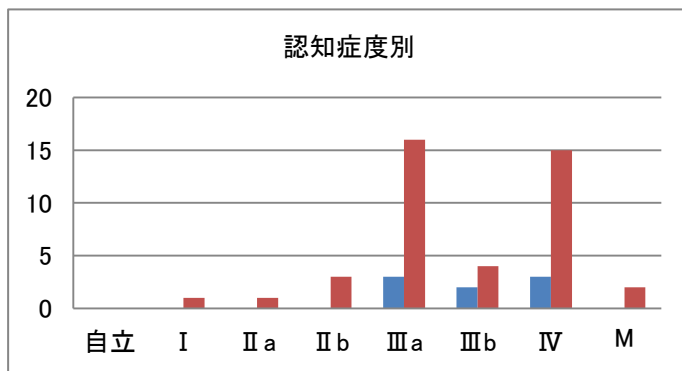
前年同日と比べ佐伯区1人増、西区1人減、安佐南区が1人新たに加わり、江田島が 0 となった。佐伯区の占有率は 78%。

保険者	佐伯区	西区	南区	安佐南区	廿日市	江田島	上関町	合計
男性	5	1	1	0	1	0	0	8
女性	34	4	0	1	2	0	1	42
合計	39	5	1	1	3	0	1	50

(カ) 認知症度別人数 (平成 26 年 3 月末日現在)

下記の表のとおり、50 名の入所者のうち 45 名が認知症度Ⅲ以上。平成 25 年 9 月～10 月に職員 1 名を認知症介護研究・研修仙台センターへ派遣し認知症介護指導者養成研修を受講させた。これによって、平成 25 年 12 月から、「認知症専門ケア加算Ⅰ」を「認知症専門ケア加算Ⅱ」に変更して算定している。

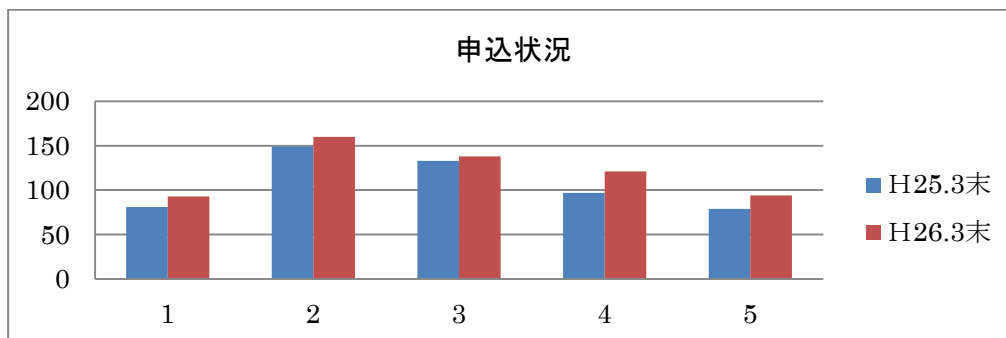
認知症度	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	合計
男性	0	0	0	0	3	2	3	0	8
女性	0	1	1	3	16	4	15	2	42
合計	0	1	1	3	19	6	18	2	50



(キ) 入所申込者の状況

平成 26 年 3 月末日の申込者総数は 606 人。平成 25 年度 1 年間の申込者数は 107 人、取下げが 40 人で差引 67 人増となった。申込者の介護度分布は下表のとおり。

介護度	1	2	3	4	5	合計
平成25年3月末	81	149	133	97	79	539
平成25年度申込数	17	27	17	29	17	107
平成25年度取下げ	5	16	12	5	2	40
平成26年3月末	93	160	138	121	94	606



II. 職員の状況

実数では、期首(4月)45名から期末(3月)46名と1名増。介護職は、常勤の契約職員(1年契約)1名を正職員登用、非常勤職員2名を契約職員へ、看護職1名が12月末付けで退職したため、派遣職員により補充している。

職種	平成25年度期首(4月)			H25年度期中		平成25年度期末(3月)		
	人数	内非常勤	常勤換算	採用	退職	人数	内非常勤	常勤換算
施設長	1		1			1		1
医師	1	1	0.1			1	1	0.1
生活相談員	1		1			1		1
介護支援専門員	1		1			1		1
機能訓練指導員			0	1	1			0
看護職	4	1	3.8	1	1	4	1	3.6
内 正看護師	0		0			0		0
記 准看護師	4	1	3.8	1	1	4	1	3.6
介護職	24	5	22.7	2	3	25	3	23.3
内 介護福祉士	15	1	14.6	1	1	15	2	14.2
記 その他	9	4	8.1	1	2	10	1	9.1
管理栄養士	1		1			1		1
調理員	5	2	4.6	8	8	5	1	4.6
用務員	1	1	0.1			1	1	0.1
当直専門員	3		1.5			3		1.5
事務員	3	1	2.7			3	1	2.7
小計	45	11	39.5	12	13	46	8	39.9

(注)採用・退職欄には、法人内他事業所への異動を含む。

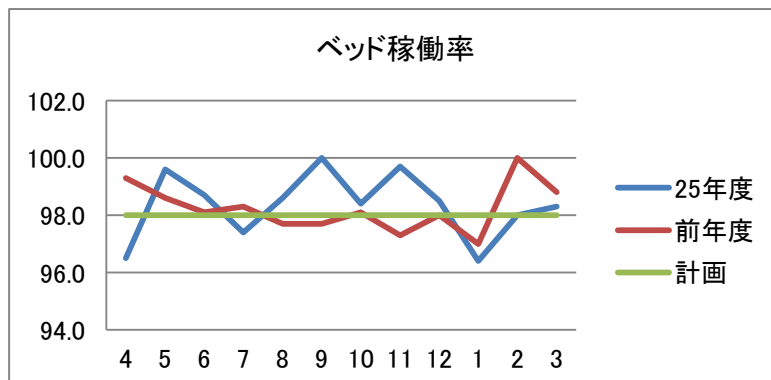
III. 事業計画の実施状況について

特養部門 平成 25 年度部門目標

- (ア) ベッド稼働率 98%
- (イ) 一人一人の意思と人格を尊重し、チームケアで自立支援を実践
(施設サービス計画の作成から実践・評価)
- (ウ) 個別化に沿った日課、業務の見直し

(ア) ベッド稼働率 98%・・・実績 98.3%

特養入所者のみでは、入院等の空床が479床発生し97.4%であったが、長期や緊急の短期入所利用者の受入れを積極的に行った。



(イ) 一人一人の意思と人格を尊重し、チームケアで自立支援を実践

(施設サービス計画の作成から実践・評価)

➤ 在宅復帰支援

平成 20 年 4 月要介護 5 で入所した女性入所者(退所時 85 歳)が、平成 26 年 2 月からの介護保険の更新において要支援 2 と認定され、2 月 20 日在宅復帰を果たした。入所当初は胃ろうによる経管栄養であったが、入所半年後から経口摂取を希望され、徐々に移行。また、平成 23 年 9 月からは、機能訓練指導員(理学療法士)の指導のもと熱心に機能訓練に取り組み、常時車椅子使用から歩行器を使った歩行が可能となった。平成 26 年 1 月末に要支援 2 の通知があり、2 月 20 日まで短期入所を利用しながら、生活相談員、介護職員、引き継ぐ居宅介護支援事業所の介護支援専門員と家族が準備をして、在宅復帰となった。

➤ 看取りケアの実践

25 年度は、4 件の看取りケアを実施。施設内で 2 月 20 日に研修を行った。

➤ 食事の工夫、水分補給、排泄の自立支援、下剤に頼らない排泄ケア、オムツはずしの実践

前年から引き続き、水分摂取については、1 人 1 日あたり 1,500cc の摂取を目標に、入所者毎の水分摂取量を記録。入所者の体調改善を計った。排泄自立のポイントである、「水分ケア」「下剤中止」「歩行練習」「トイレでの排泄」を実施。「水分ケア」は、上記の水分補給の取組、「下剤中止」は、水分摂取による自然排便の促進で、週 3 回下剤を定期服用していた利用者が 3 日排便がない場合のみ薬剤を服用することに改善、「トイレでの排泄」は、排泄パターンによるトイレ誘導を実施。日中リハビリパンツから布パンツへの移行などを積極的に行った。

➤ 個別機能訓練の実施

平成 25 年 6 月、通所介護事業所より専任の機能訓練指導員(理学療法士)を配置。入所者全員の個別機能訓練計画を作成し、7 月より訓練開始。

- ・ 歩行の距離が伸び本人の笑顔を見ることができた。
- ・ 介護職員も専門的な知識を習得することができた。
- ・ 姿勢の改善により、食事時の姿勢がよくなり、食べこぼしが少なく食事をするようになった。

など、実施中は改善の効果に職員や家族からの反響が多かった。しかしながら、機能訓練指導員(理学療法士)が 2 月末に退職したため、現在は一部の入所者のみの指導しかできていない。外出支援のためにも、個別機能訓練実施を望む声は高い。

➤ 外出支援

5・6 月家族会行事として廿日市の洋菓子工場へ外出。ふれあいユニットでは、5 人の入所者に個別対応として、お墓参りや自宅での会食、家族との外食、ショッピングセンターや観光地での買い物、孫の結婚式の式前写真撮影に参加等の支援を行った。

➤ 家族及び家族会活動との連携

入所者に変化が起こった時の連絡・報告はもちろんのこと、日常的な生活状況や健康状態の連絡については、毎月 1 回利用料請求時に、担当介護職・看護職・栄養士からの状況報告(「ようこうファミリー」)を個別に作成し報告している。家族会活動は、家族会総会で承認を受けた事業計画に沿って次頁の行事を実施した。

(ア) 食事形態 (平成 26 年 3 月 31 日 現在)

食事形態	常食	キザミ	極キザミ	ペースト	経管栄養
食事数	14	14	17	3	2

(イ) 年間療養食加算取得状況

	貧血食	糖尿病食
実人数	9	5
延べ日数	2,525	1,255

(ウ) 栄養年報

区分/栄養量	エネルギー kcal	たんぱく質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄 mg	ビタミンA IU	ビタミンB1 mg
栄養所要量	1,519	51.6	33.5	617	6.1	675	0.9
栄養摂取量	1,419	61.9	36.0	605	7.7	599	0.8

栄養所要量(計画) 栄養摂取量(実績)

(エ) 行事食等

内容		実施日	内容		実施日
開設記念日	バイキング	5/19	忘年会	寄せ鍋・餅つき	12/14
土用の丑の日	うな重	7/22	新年互礼会	松花堂弁当	1/1
夏祭り	バイキング	7/27	新年	雑煮	1/2
敬老会	松花堂弁当	9/8	節分	巻きずし	2/3
お彼岸	おはぎ	9/25・3/31	雛祭り	雛様寿司	3/3
物故者慰霊祭	精進料理	11/1			

V. 防災訓練等

(ア) 自衛消防訓練実施状況

実施日	訓練内容	参加者				備考
		入所者	通所	職員	計	
6.10	総合訓練(夜間想定)	42	0	19	61	消防職員・2名立会
11.29	総合訓練(夜間想定)	39	6	20	65	〃

平成25年9月5日(木) 広島市佐伯消防署主催 自衛消防訓練に係る防火講習会 1名参加

(イ) 非常食備蓄状況 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

種類	水	主食			副食	
		ご飯	粥	パン(缶)	レトルト食品	缶詰
数量	20×306本	210食	218食	24食	250食	240食

職員・協力者用別途備蓄 90 食

VI. 設備等の管理

時期	内容	場所
4 月	冷蔵庫の入替え	特養 ふれあい
8月・9月	パソコン入替え 11台	各事業所
9 月	介護保険ソフト 更新	〃
12 月・1 月	勤怠・給与計算ソフト 入替え	〃
2 月	車いす移動車 入替え	特養
		通所

なお、施設内整備として、居室(個室)2 部屋の壁・天井のクロス張替とふれあいユニットの床シートの一部張替えを行った。

VII. 広島市受託事業

広島市重度身体障害者入浴サービス事業は、期首 2 名の利用から、6 月末で1名廃止。9 月より1名新規利用で、期末時利用者 2 名。生活指導短期宿泊事業は、11 月 8 日間、12・1 月 14 日間利用があり、いずれも介護者の入院での緊急対応であった。

受託業務名	実績金額	実利用者	延べ利用者
広島市重度身体障害者入浴サービス事業	286,750	3	95
広島市生活指導短期宿泊事業	58,960	2	22

VIII. 苦情について

平成 25 年度は、苦情報告なし。

IX. 介護事故の発生について

平成 25 年度は、医療機関に受診するような事故の発生はない。

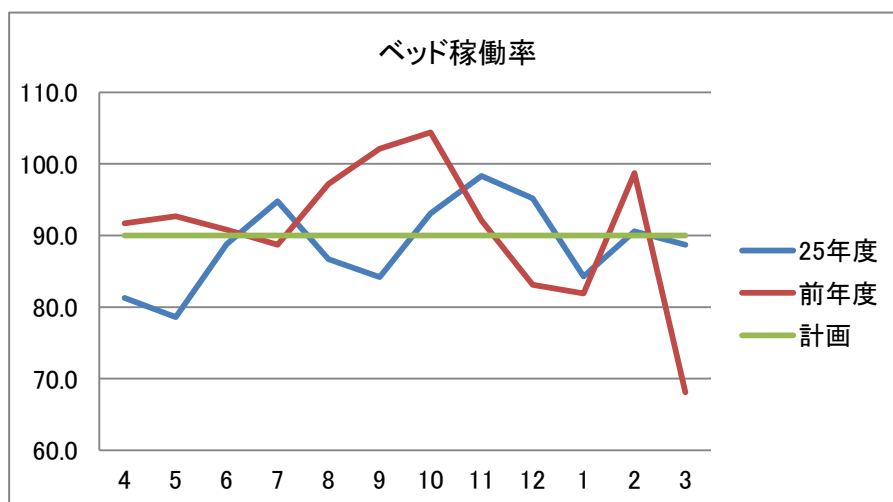
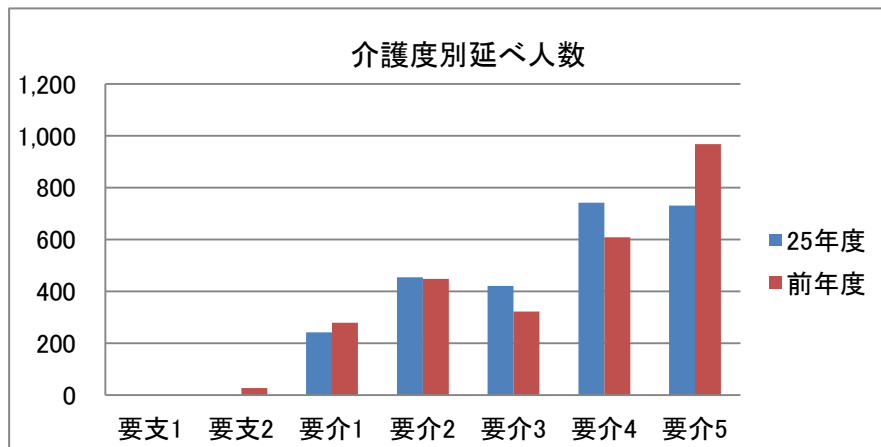
2. 陽光の家 短期入所生活介護事業所

短期入所事業所は、特養と一体的に事業所運営を行っている。

1. 利用者の状況

25年度は、新規契約者 23 人 廃止 6 人。月平均実利用者は、31.2 人、前年対比▲1 人。延べ利用者数の前年対比は▲63 人、ベッド稼働率は 90.9%から 87.7%へ▲3.2%となった。100%を上限とする退所日を含まない稼働率は 66.6%、前年比▲1.6%。計画稼働率を達成した月が、24 年度 8 ヶ月に対し、25 年度は 5 ヶ月であった。これは、要介護 5 の定期利用者の廃止、入院による減少が大きく影響している。

介護度	要支1	要支2	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計	平均		
									介護度	実利用者	稼働率
25年度	0	0	242	454	421	742	731	2,590	3.0	31.17	87.7
%	0.0	0.0	9.3	17.5	16.3	28.6	28.2	100			
前年度	0	27	279	448	322	609	968	2,653	3.6	32.25	90.9
%	0.0	1.0	10.5	16.9	12.1	23.0	36.5	100			
対比	0	▲ 27	▲ 37	6	99	133	▲ 237	▲ 63	▲ 0.6	▲ 1.1	▲ 3.2



II. 事業計画の実施状況について

短期入所部門 平成25年度部門目標

- (ア) ベッド稼働率 90%
- (イ) 定期的な利用による在宅介護の継続支援（短期入所生活介護計画の作成から実践・評価）
- (ウ) 緊急時の受入対応

(ア) ベッド稼働率 90%・・・実績 87.7% 内容前頁利用者の状況参照

(イ) 定期的な利用による在宅介護の継続支援(短期入所生活介護計画の作成から実践・評価)

平成 25 年度は、新規契約者数 23 人、内訳は毎月の定期利用者 3 人、不定期利用者 13 人、平成 26 年 3 月現在、毎月の定期利用者は 22 人。4 日以上の利用が予定されている利用者への作成が必要である短期入所生活介護計画の作成状況は、25 年度末現在 80%。平成 26 年 3 月実施された広島市による実地指導での改善事項でもあり、早急な対応が必要な課題である。

(ウ) 緊急時の受入対応

平成 25 年度は、特養の空床利用を含め、緊急受入れ 7 件、延べ 175 日となった。申し入れ元は、自宅から最も多く 5 件続いて病院 1 件、特養 1 件となっている。緊急を要する理由は、主たる介護者の死亡、入院や体調不良が 4 件、病院から老人保健施設への転院の間の日程調整 1 件、特養から在宅復帰への間の日程調整 1 件、本人の安全管理 1 件であった。

IV. 苦情について

No.	受付日	内容	対応
1	11/25	前回利用(11/3～5)時にリバスタッチ(認知症の貼り薬)を背中に3日分続けて貼ってあった。症状は出ていなかったのですが、ちゃんとしてほしい。こまめに本人の事を見てほしい。	看護師に確認後、生活相談員より家族に謝罪する。関係職員へ事実の周知をし、薬剤の取り扱いについては、看護職に確認することを徹底する。

V. 介護事故の発生について・・・1 件発生

平成 25 年 11 月 20 日(水) 9:25 頃

男性利用者が職員と一緒に、車椅子からベッドに移乗中、本人の足が滑りバランスを崩し転倒。壁に頭部右側を殴打する。主治医に連絡後、妻と一緒にJA広島総合病院を受診。頭部CT結果、出血等以上なし。その後経過異常なし。

3. 陽光の家 通所介護事業所

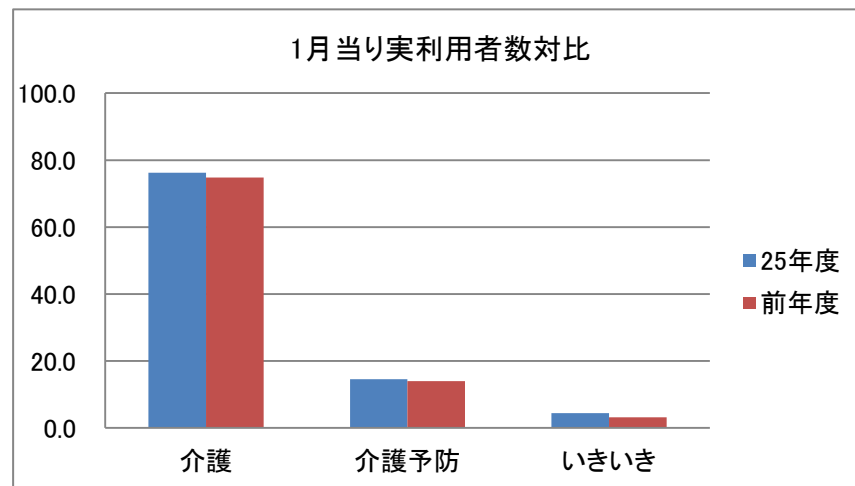
通所介護事業所は、指定通所介護事業、指定介護予防通所介護事業及び広島市高齢者いきいき活動支援通所事業を実施。平成 25 年 1 月より新たに広島市生活機能維持向上事業を受託。

I. 利用者の状況

(ア) 1 月当たり平均実利用者数

平成 25 年度の新規契約者は 37 人(うち介護 24 人、介護予防 8 人、自立 5 人)廃止 30 人。1 月当りの平均利用者数は、前年度に比べ各区分ともに増加し、合計 3.2 人の増となった。

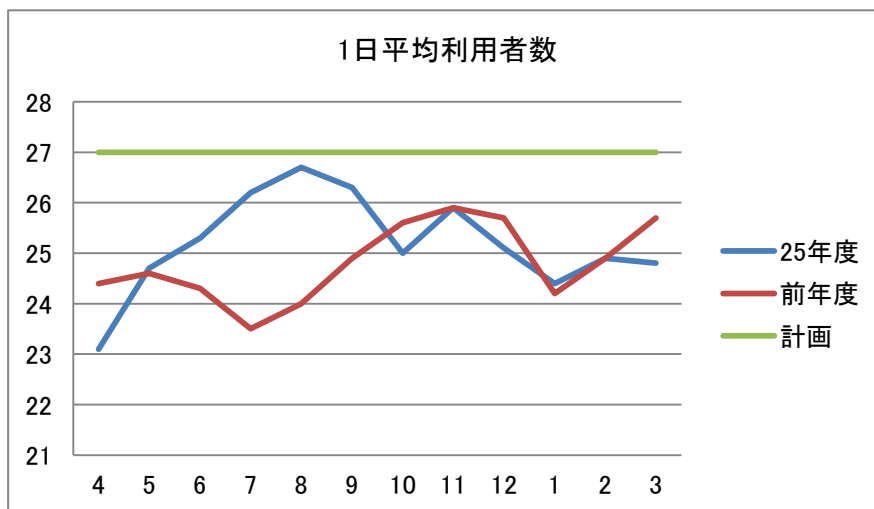
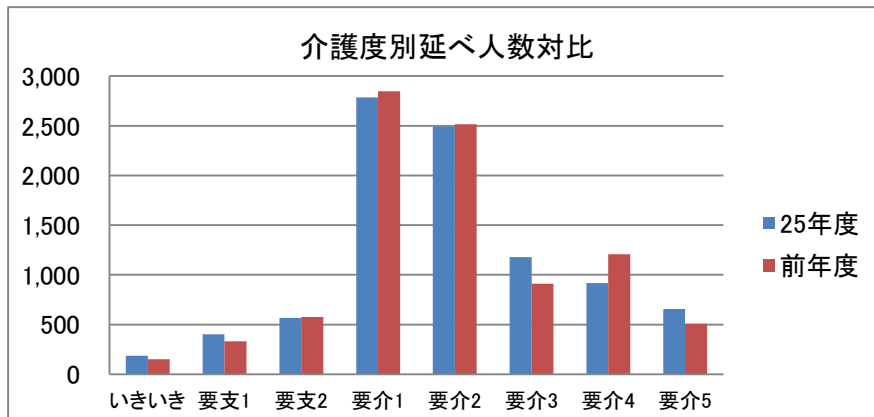
	介護	介護予防	いきいき	合計
25年度	76.2	14.6	4.4	95.2
前年度	74.8	14.0	3.2	92.0
対比	1.4	0.6	1.2	3.2



(イ) 介護度別延べ人数対比

延べ人数は、前年度から141人増、1日当りの利用人数は25.2人で0.5人増となった。介護度別では、差が大きいところで要介護4が減少し、要介護3・5が増加している。利用者数は、4月のスタートで廃止者がまとまって出てマイナススタートとなったが、6月から9月の間は居宅介護支援事業所への営業活動が実り、前年を上回った。年末年始は、例年になく利用者が少なく、3月初旬はインフルエンザ発生の影響で利用人数が下がった。

介護度	いきいき	要支1	要支2	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計	1日平均利用者
25年度	187	404	567	2,784	2,493	1,180	919	658	9,192	25.2
%	2.0	4.4	6.2	30.3	27.1	12.8	10.0	7.2	100.0	
前年度	151	331	575	2,848	2,516	912	1,209	509	9,051	24.7
%	1.7	3.7	6.4	31.5	27.8	10.1	13.4	5.6	100.0	
対比	36	73	▲ 8	▲ 64	▲ 23	268	▲ 290	149	141	



(ウ) 時間帯別延べ利用者数と夕食サービス利用者

時間帯別の延べ利用者数は、下表のとおり。前年と対比すると、少しずつ短時間の方へシフトしている。経営基盤確保のため、報酬額の高い7～9時間のサービスを50%確保することを目標としたが、43.5%に止まった。しかしながら、独居者や家族の都合で夕食を提供するサービスは369食(44%)伸び、3月の利用者は7人87食、多い日は1日6人が利用している。

所要時間	3～5時間	5～7時間	7～9時間	合計	夕食サービス
25年度	825	3,712	3,494	8,031	1,195
	10.3	46.2	43.5	100	
前年度	642	3,444	3,922	8,008	836
	8.0	43.0	49.0	100.0	

II. 職員の状況

今年度は、介護職の退職が8人、緊急的に派遣職員を受け入れ対応している。生活相談員1名と介護職1名は、居宅介護支援事業所の介護支援専門員を兼務している。

職種	平成25年度期首(4月)			H25年度期中		平成25年度期末(3月)		
	人数	内非常勤	常勤換算	採用	退職	人数	内非常勤	常勤換算
生活相談員	3	1	2	2	2	3	1	2
看護職	1	1	1.7			1	1	1.7
内 訳	正看護師	0	1	0.7	1	1	0	0.7
	准看護師	1		1			1	1
機能訓練指導員	1		1	1	1	1		1
介護職	9	6	7.5	8	8	9	4	8.3
内 訳	介護福祉士	6	4	4.9	1	3	4	4.4
	その他	3	2	2.6	7	5	5	3.9
運転手	2	2	0.1			2	2	0.1
小計	16	10	12.3	11	11	16	8	13.1

III. 事業計画の実施状況について

通所介護部門 平成 25 年度部門目標

(ア) 1 日の平均利用者数 27 人(介護・予防・いきいき活動含む)

(イ) 介護予防・生活機能向上のための個別機能訓練の充実と在宅支援
(通所介護計画・個別機能訓練計画の作成から実践・評価)

(ア) 1 日の平均利用者数 27 人(介護・予防・生きがい活動含む)・・・実績 25.2 人

(イ) 介護予防・生活機能向上のための個別機能訓練の充実と在宅支援

- 余暇活動では、食堂・訓練室に分かれてユニット対応、能力別に個別レクを実施。講師による書道(月 1 回)、陶芸(月 2 回)、生花(月 1 回)の活動実施。園芸活動、おやつレク(月 3 回)を行った。集団レクは、年度計画に基づき、月前半と後半のメニューを変えて行った。
- 平成 25 年度の個別機能訓練加算の算定状況は、個別機能訓練加算(Ⅰ)が年間 5,794 回で前年 4,903 回から 891 回増、加算算定率は 61.3%から 72.1%へ、1 月平均が 408.6 回から 482.8 回へ 74.2 回増加した。個別機能訓練加算(Ⅱ)は、年間 77 回から 15 回へ▲62 回、実人数は 3 人から 2 人へ減少した。介護予防の運動機能向上加算は、前年度年間 161 人から 162 人でほぼ同数となったが、延べ利用者数が 7 人増加したため、加算算定率は 95.8%から 92.6%へ▲3.2%となった。個別機能訓練実施者は、3 ヶ月毎に体力測定を実施した。

III. 苦情処理状況

平成 25 年度は、苦情報告なし。

VI. 介護事故の発生について・・・1 件発生

平成 25 年 11 月 9 日(土) 17:50 頃

夕食サービスを利用している男性利用者を事業所より自宅へ送る際、施設玄関前に駐車した送迎車輛の後部ドアより座席へ誘導、シートベルトを装着後車輛ドアを閉め、介助員は次の利用者を誘導するため車輛を離れた。介助員が次の利用者と車両に戻ると、男性利用者が車外に出て、仰向けに倒れ頭部から出血しているところを発見する。妻に連絡し五日市記念病院を受診。CT検査の結果異常なし。傷の処置を行う。以後 11 月末まで傷の処置のため通院する。賠償保険より通院と治療の費用給付となる。

4. 陽光の家 訪問介護事業所

訪問介護事業所では、指定訪問介護事業、指定介護予防訪問介護事業、障害福祉サービス事業、広島市障害者(児)移動支援事業を実施。

I. 利用者の状況

(ア) 実利用者数と延べ訪問回数の前年対比

平成 25 年度の新規契約者数は、21 人(うち介護 7 人、介護予防 14 人、障害者 0 人)廃止は 6 人であった。実利用者数の前年対比は、下表のとおり。職員体制の問題から前年度下半期から利用者の調整を行い、今年度は職員の確保に従い徐々に利用者数を増やしてきた。

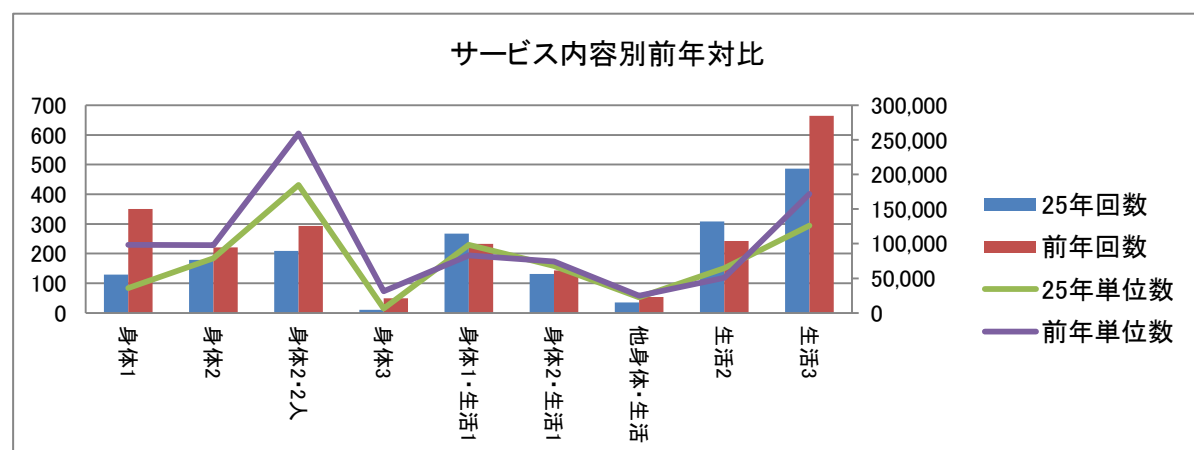
実利用者数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
25年度	29	29	32	30	32	34	35	36	37	36	38	39	33.9
前年度	46	48	49	50	47	45	35	33	32	32	33	32	40.2

25 年度期首の 4 月と 25 年度期末の 26 年 3 月の利用者の区分を対比してみると、下表のとおり要介護者は 2 人増、介護予防者は 8 人増と予防利用者の増加比率が大きくなっている。

介護度	障害	要支1	要支2	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計
H25年4月	2	3	7	5	5	1	3	3	29
H26年3月	2	10	8	8	6	1	2	2	39
対比	0	7	1	3	1	0	▲ 1	▲ 1	10

介護保険サービス内容別訪問回数と算定単位数を前年と対比してみると、要介護者の減少により、身体介護が減少、特に職員体制の問題から、デイサービスの送り出しを行う身体1と2人派遣の身体2およびサービス時間の長い生活3の減少幅が大きい。

区分	身体1	身体2	身体2・2人	身体3	身体1・生活1	身体2・生活1	他身体・生活	生活2	生活3
25年回数	129	179	209	10	267	131	35	308	486
前年回数	350	221	293	49	233	143	54	242	664
対比	▲ 221	▲ 42	▲ 84	▲ 39	34	▲ 12	▲ 19	66	▲ 178
25年単位数	35,991	79,118	184,756	6,420	98,256	67,989	22,587	64,372	125,874
前年単位数	98,210	97,682	259,012	31,458	82,948	74,217	24,689	50,578	171,976
対比	▲ 62,219	▲ 18,564	▲ 74,256	▲ 25,038	15,308	▲ 6,228	▲ 2,102	13,794	▲ 46,102



II. 職員の状況

平成 25 年度期首は、常勤職員 2 人と登録型ヘルパー 4 名でスタート。期末は、常勤職員 2 人と登録型ヘルパー 5 人の体制となる。

職種	平成25年度期首(4月)			H25年度期中		平成25年度期末(3月)		
	人数	内非常勤	常勤換算	採用	退職	人数	内非常勤	常勤換算
訪問介護員	7	5	2.5	2	2	7	5	2.9
内 訳	介護福祉士	4	3	1	1	4	2	2.6
	その他	3	2	1	1	3	3	0.3

III. 事業計画の実施状況について

訪問介護部門 平成 25 年度部門目標

(ア) 月延べ訪問件数 300 件(介護 180 件 予防 60 件 障害 60 件)

(イ) 在宅継続支援と自立支援(訪問介護計画の作成から実践・評価)

(ウ) 年間研修計画の実施

(ア) 月延べ訪問件数 300 件(介護 180 件 予防 60 件 障害 60 件)

計画と月平均の訪問件数実績対比は、以下のとおり。計画達成率は、84.7%となった。

	介護	予防	障害	合計
事業計画	180	60	60	300
実績	164	69	21	254
対比	▲ 16	9	▲ 39	▲ 46

(イ) 在宅継続支援と自立支援(訪問介護計画の作成から実践・評価)

アセスメント・訪問介護計画書の作成・モニタリング・評価という基礎的なサイクルをと実行し、サービス提供責任者は、定期的な同行訪問による利用者との関係づくりと、サービスの質の向上のため担当ヘルパーへの助言・指導を重点的に行った。

(ウ) 年間研修計画の実施

法人全体の職員研修とは別にホームヘルパーフォローアップ研修計画を立て、月 1 回行うヘルパー会議に合わせて実施した。開催内容は下記のとおり。

研修項目	実施日
法令遵守を踏まえた記録票の書き方、報告の仕方	4/2
介護技術① 掃除の基本	5/7
介護保険制度の概要	6/4
介護技術② 洗濯の基本	7/2
自立支援に向けた介護についての心がまえ	8/6
介護技術③ 調理 接遇マナー	9/3
介護技術④ 摂食・嚥下障害の方への調理	10/8
排泄介助の基本 食中毒・感染症対策について	11/5
排泄介助の基本の技術指導	12/5
移動介助の基本	1/7
移動介助の基本の技術指導	2/4
認知症と認知症のケア	3/4

IV. 苦情処理

No.	受付日	内容	対応
1	2/25	当初当月のみ3回利用とケアマネジャーから依頼を受け1人のヘルパーで3回とも訪問していた。しかし、引き続き次月も週3回利用を希望されたため、本人や介護者に、2人体制でヘルパー派遣をすること伝えるが、「弱者なんだから、いろんな人が家に来ることが嫌と言っているし、今のヘルパーが気に入っているの、担当を2人にするのは不当だ。1人のヘルパーで訪問してくれ！」と夫婦からの訴えがあった。	当事業所としては、週2回以上の利用の場合は、ヘルパーの急な休み等の対応のため、極力2人で担当させてもらっている等説明するが、納得されず。「第三者委員等に苦情を申し入れてやる」等言われる。 後日改めてサービス担当責任者より、契約時に重要事項説明書で、ヘルパーの指名は出来ないこと、ヘルパー交代があること説明し、契約してもらっていること確認し納得される。利用者からは「週2回で良いので、現在のヘルパーを派遣するように」と希望がある。 4月末まで現在の担当ヘルパーが訪問し、担当ヘルパー休みのときは、サービス担当責任者が訪問する。5月からヘルパー交代するという3点の了承を得る

V. 介護事故の発生について

平成 25 年度は、医療機関に受診するような事故の発生はない。

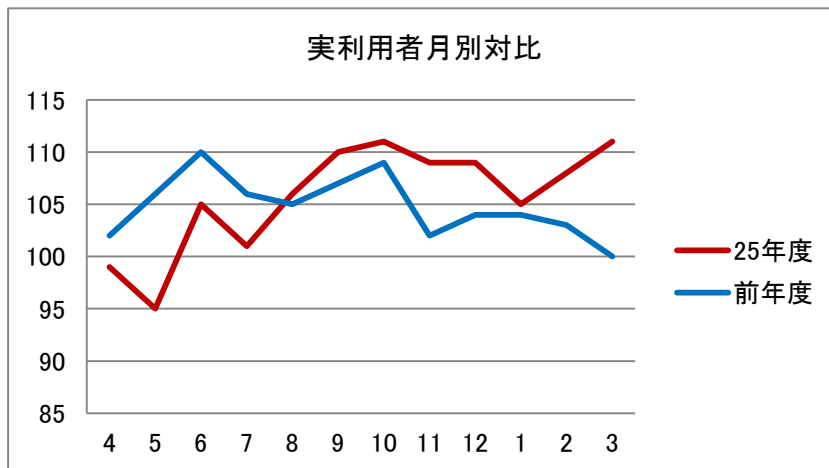
5. 陽光の家 居宅介護支援事業所

I. 利用者の状況

(ア) 実利用者数（介護）

平成 25 年度の新規契約者は 43 人、廃止 20 人となった。1 月当たりの件数は、105.8 件。前年度より月平均 1 件増加。12 月・1 月と廃止者・入院者の影響で落ち込んだが、2 月・3 月と回復傾向にある。

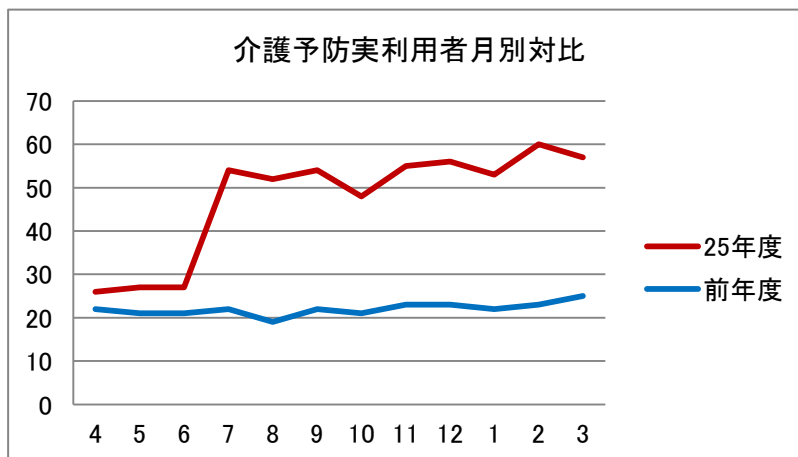
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
25年度	99	95	105	101	106	110	111	109	109	105	108	111	105.8
前年度	102	106	110	106	105	107	109	102	104	104	103	100	104.8



(イ) 実利用者数（介護予防 各地域包括支援センターより受託）

介護予防給付は、7 月から城山・五日市観音地域包括支援センターからの受託数増加。7 月以降は、月平均 54 件を受託している。

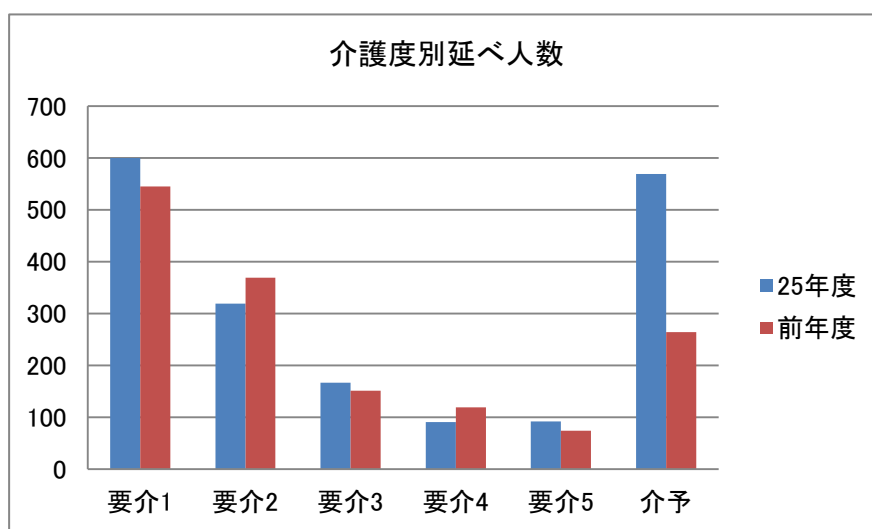
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
25年度	26	27	27	54	52	54	48	55	56	53	60	57	47.4
前年度	22	21	21	22	19	22	21	23	23	22	23	25	22.0



(ウ) 介護度別延べ人数

介護度は、前年対比で要介護 1、2と要介護 3～5で各々増減あり。介護報酬が要介護 1、2と要介護 3～5で分かれており、ほとんど影響がない。介護予防受託分で大きく利用者数が増えている。

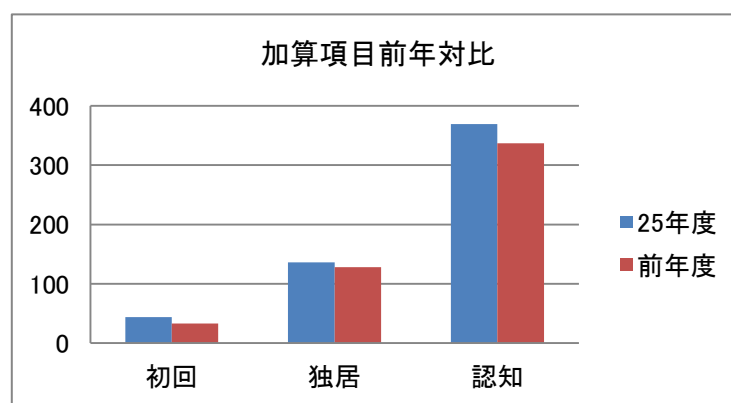
介護度	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	介予	合計	1ヶ月平均
25年度	600	319	167	91	92	569	1,838	153.2
%	32.6	17.4	9.1	5	5	31	100	
前年度	545	369	151	119	74	264	1,522	126.8
%	35.8	24.2	9.9	7.8	4.9	17.3	100	
対比	55	▲ 50	16	▲ 28	18	305	316	



(エ) 加算項目前年対比

初回と独居加算は月 1 件弱、認知症加算は月 3 件弱増加している。

	初回	独居	認知
25年度	44	136	369
前年度	33	128	337
対比	11	8	32



II. 職員の状況

期首は、専任職員 3 人と通所介護との兼務職員 1 人でスタート。7 月に通所介護と地域包括の兼務職員を増員、専任 3 名と兼務 3 名の 6 名体制とし、常勤換算では 0.5 人増員となった。

職種	平成25年度期首(4月)			H25年度期中		平成25年度期末(3月)		
	人数	内非常勤	常勤換算	採用	退職	人数	内非常勤	常勤換算
介護支援専門員	4	1	3.3	3	1	6	3	3.8

III. 事業計画の実施状況について

居宅介護支援部門 平成 25 年度部門目標

(ア) 介護給付 120 名 予防給付 25 名
(イ) 自立支援型ケアマネジメントの実践(サービス事業者との連携)
(ウ) 主治医・病院・地域包括支援センターとの積極的な連携

(ア) 介護給付 120 名 予防給付 25 名

介護給付費 実績 105.8 件 達成率 88.2% 24 年度実績より 1.0 件増加

予防給付 実績 47.4 件 達成率 189.6% 24 年度実績より 25.4 件増加

(イ) 自立支援型ケアマネジメントの実践(サービス事業者との連携)

サービス事業所との協働により、利用者の在宅生活の継続ができ、介護度の重度化予防ができた。

24 時間 365 日の相談対応で、利用者の安心を獲得でき在宅生活の継続ができた。

(ウ) 主治医・病院・地域包括支援センターとの積極的な連携

利用者の入院中から病院関係者と支援を始めることで、円滑な退院およびサービスの導入ができるようになった。地域包括支援センターの相談ケースにも積極的に対応することで、新規利用者の獲得につながった。

IV. 苦情処理

平成 25 年度は、苦情等なし。

6. 広島市城山・五日市観音地域包括支援センター

I. 事業実施状況

事業実施場所：広島市佐伯区千同一丁目 30-6 高東ビル1階

圏域：広島市立城山中学校及び同五日市観音中学校 校区内

圏域高齢者人口：6,948 人 高齢化率:23.4% (平成 25 年 11 月現在)

		八幡	観西	観音	合計
高齢者人口(人)	H25.11	2,966	1,765	2,217	6,948
	H24.9	2,850	1,845	2,549	7,244
	対比	116	▲ 80	▲ 332	▲ 296
高齢化率(%)	H25.11	26.3	22.7	20.8	23.4
	H24.9	25.3	22.6	20.5	20.5
	対比	1.0	0.1	0.3	2.9

広島市受託事業

受託業務名	25年度	24年度	対比
広島市地域包括支援センター運營業務(包括的支援事業)	24,493,000	24,493,000	0
広島市特定高齢者把握事業(単価契約)	408,300	189,120	219,180
広島市地域介護予防推進事業(単価契約) 1回60,000円×24回	1,440,000	1,440,000	0
広島市高齢者いきいき活動支援訪問事業(単価契約)	0	0	0
合計	26,341,300	26,122,120	219,180

① 広島市地域包括支援センター運營業務(包括的支援事業)

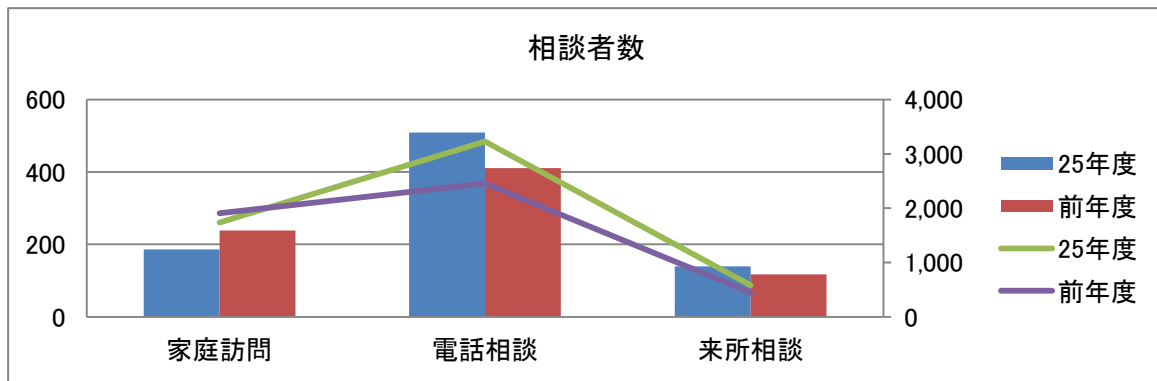
介護予防ケアマネジメント事業・・・特定高齢者把握事業

総合相談・支援事業、権利擁護事業、包括的・継続的ケアマネジメント事業

ア. 相談件数

前年と対比すると、実人数で8.9%、延べ人数で15.2%増加。相談方法は、いずれも電話が最も多い。家庭訪問の減少は、介護予防給付の外部委託が増加し、直接家庭訪問する回数が減ったことによる。

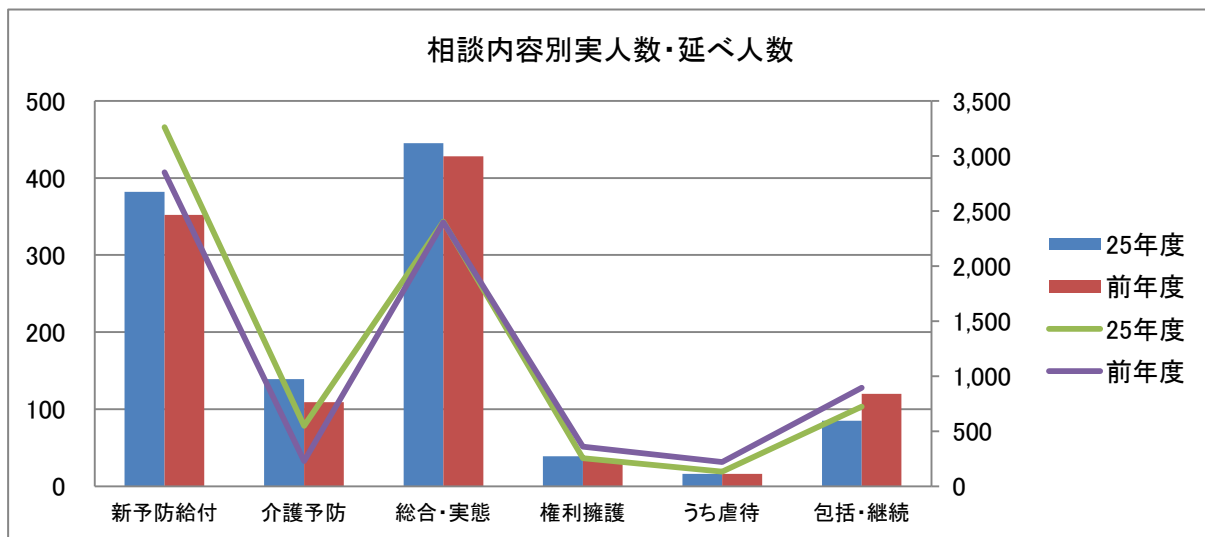
相談方法	実人数			延べ人数		
	25年度	前年度	対比	25年度	前年度	対比
家庭訪問	186	238	▲ 52	1,734	1,908	▲ 174
電話相談	509	411	98	3,230	2,457	773
来所相談	139	117	22	582	449	133
合計	834	766	68	5,546	4,814	732



イ. 相談内容

実人数では総合相談・実態把握が最も多く全体の 40.8%を占め、延べ人数では、介護保険制度の要支援1及び2の方への介護予防給付に関することが最も多く 45.5%を占める。

		実人数			延べ人数		
		25年度	前年度	対比	25年度	前年度	対比
介護予防支援業務(新予防給付)		382	352	30	3,261	2,852	409
包括的支援業務	介護予防ケアマネジメント(特定高齢者)	139	109	30	548	228	320
	総合相談・実態把握	445	428	17	2,404	2,399	5
	権利擁護	39	34	5	254	361	▲ 107
	うち 高齢者虐待相談人数	16	16	0	134	220	▲ 86
	包括的・継続的ケアマネジメント	85	120	▲ 35	723	894	▲ 171
合計		1,090	1,043	47	7,190	6,734	456



② 広島市特定高齢者把握事業

特定高齢者の候補者として選定された者について、生活機能に関するチェックリストの結果等を踏まえ、別に定められた基準に基づき、参加することが望ましいと考えられる介護予防プログラムを判定する。事業実施に当たっては、介護予防ケアマネジメントと一体的に実施する。

平成 25 年度事業実施状況

	25年度	前年度	対比
特定高齢者の判定	125	99	26
プログラムの判定(初回分)	29	11	18
プログラムの判定(継続分)	64	29	35
金額	408,300	189,120	219,180

③ 広島市地域介護予防推進事業

虚弱高齢者等が要支援・要介護状態になることを予防し、地域活動等に継続して参加することができるよう、地域の虚弱高齢者等のニーズに応じた介護予防に関する教室、講演会を公民館、集会所等の対象者が参加しやすい施設で年 24 回を上限に実施する。

平成 25 年度事業実施状況

内容・開催場所別一覧

	内容	場所		人数
1	口腔機能	観音台公民館	1	16
2	口腔機能	坪井公民館	2	16
3	口腔機能	八幡公民館	3	15
	口腔機能 集計			47
4	低栄養(講義・実習)	観音台公民館	1	23
5	低栄養(講義・実習)	坪井公民館	2	16
6	低栄養(講義・実習)	八幡公民館	3	16
	低栄養(講義・実習) 集計			55
7	転倒予防	観音台公民館	1	25
8	転倒予防	三宅中集会所	4	25
9	転倒予防	三宅中集会所	4	20
10	転倒予防	坪井公民館	2	11
11	転倒予防	坪井荘	5	49
12	転倒予防	八幡公民館	3	12
13	転倒予防	八幡公民館	3	23
14	転倒予防	薬師が丘集会所	6	38
15	転倒予防	薬師が丘集会所	6	38
	転倒予防 集計			241
16	認知機能	観音台公民館	1	11
17	認知機能	三筋集会所	7	22
18	認知機能	三宅中集会所	8	53
19	認知機能	三宅中集会所	8	69
20	認知機能	折出会館	9	22
21	認知機能	坪井公民館	2	9
22	認知機能	坪井中集会所	10	15
23	認知機能	八幡公民館	3	31
24	認知機能	八幡公民館	3	13
	認知機能 集計			245
	総計			588

場所	回数	人数
八幡公民館	6	110
観音台公民館	4	75
三宅中集会所	4	167
坪井公民館	4	52
薬師が丘集会所	2	76
坪井荘	1	49
三筋集会所	1	22
折出会館	1	22
坪井中集会所	1	15
合計	24	588

④ 広島市高齢者いきいき活動支援訪問事業

事業の利用が適当であるとの決定を受けた者の居宅を訪問し、生活機能評価に関する課題を総合的に把握し、利用者に必要な支援を行う。

対象者がいないため、実績なし

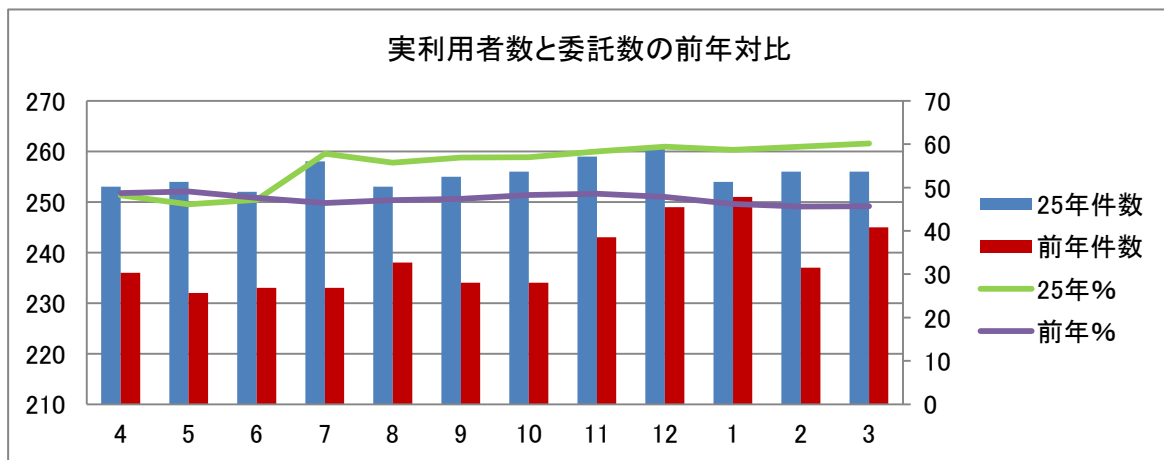
(1) 介護予防支援業務

① 利用者の状況

(ア) 利用者数月別推移と外部委託件数

25年度は、1月当たりの平均利用者数で、前年を16.8人上回っている。プランナーの配置を7月に常勤2名体制から常勤1名と常勤兼務1名(常勤換算0.6人)へ減数したため、7月より外部委託件数が平均149件に増加。25年度期末には6割を超えている。

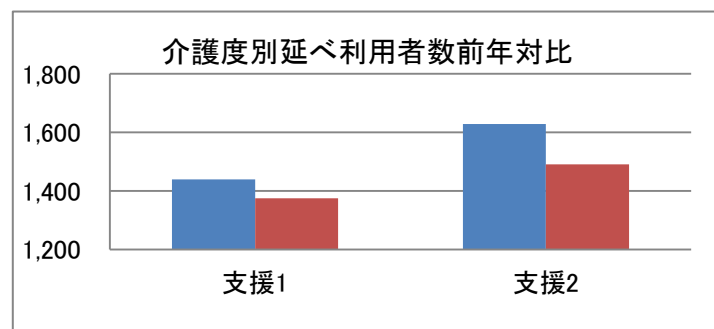
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
25年件数	253	254	252	258	253	255	256	259	261	254	256	256	255.6
25年委託	122	117	119	149	141	145	146	151	155	149	152	154	141.7
25年%	48.2	46.1	47.2	57.8	55.7	56.9	57	58.3	59.4	58.7	59.4	60.2	55.4
前年件数	236	232	233	233	238	234	234	243	249	251	237	245	238.8
前年委託	115	114	111	108	112	111	113	118	119	116	108	112	113.1
前年%	48.7	49.1	47.6	46.4	47.1	47.4	48.3	48.6	47.8	46.2	45.6	45.7	47.4



(イ) 介護度別利用者延べ利用者数前年対比

介護度別では、要支援1・2いずれも前年を上回った。要支援1に比べ要支援2が増加傾向が大きい。

介護度	支援1	支援2	合計
25年度	1,439	1,628	3,067
%	46.9	53.1	100
前年度	1,375	1,490	2,865
%	48	52	100
対比	64	138	202



II. 事業計画の実施状況について

地域包括支援センター部門 平成 25 年度部門目標

- (ア) 地域の実態把握(地域の特性に応じた活動を展開)
- (イ) 地域ケア会議の開催
- (ウ) 他職種協働のネットワーク(医療と介護の連携・介護支援専門員に対する支援)

- (ア) 地域の実態把握(地域の特性に応じた活動を展開)
 - 地区診断を(八幡、観音西、観音)別に行う。・・・広島市高齢福祉課が作成したシートに、地区毎の社会資源等を調査・作成し、年度末提出した。
 - 各団体(町内会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、まちづくり推進協議会等)の会議へ参加し情報、課題の共有を行う。・・・延べ 44 回参加。
 - 予防推進事業参加者の参加前後の評価を行う。・・・地域介護予防推進事業 24 回実施

(イ) 地域ケア会議の開催・・・2 回実施予定であったが、4 回実施できた。行政や介護保険制度として広報されているため、介護支援専門員の参加が多かった。

- (ウ) 他職種協働のネットワーク(医療と介護の連携・介護支援専門員に対する支援)
 - 関わりの少ない団体へのアプローチを行う・・・シルバーネットとの連携ができた。五日市観音学区では、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、地域包括支援センター合同の連携会議が平成 26 年 4 月より始まる。
 - 担当圏域の医療機関、介護保険事業所への訪問、情報交換、課題解決に向けた連携を図る。・・・医療機関には、センターのチラシ等を置いてもらう。事業所とは、随時連携を取った(サービス調整、困難事例、高齢者虐待等)。
 - 医師を交えた研修会を行う。・・・平成 26 年 2 月 22 日 「健康あんしん講座」(講師:ナカムラ病院院長) 地域住民 89 人参加(場所:観音台公民館)
 - 介護支援専門員に対する支援では、平成 25 年度 12 回研修会を開催。内 6 回は主任介護支援専門員の勉強会との共催で事例検討会を行い、その他、認知症・成年後見をテーマに行った。

III. 職員の状況

平成 25 年 7 月に法人内で異動を行い、プランナー専任の介護支援専門員を 2 名体制から 1 名専任・1 名兼務へ変更。平成 26 年 2 月は、センター長に社会福祉士を充てる人事異動を行った。

職種	平成25年度期首		H25年度期中		平成25年度期末	
	人数	常勤換算	採用	退職	人数	常勤換算
保健師	1	1			1	1
社会福祉士	2	2			2	2
主任介護支援専門員	1	1	1	1	1	1
介護支援専門員	2	2	1	1	2	1.6
合計	6	6	2	2	6	5.6

IV. 苦情処理状況

No.	受付日	内容	対応
1	9/22	介護保険の代行申請の際に、訪問した職員が、しんどいと言っているのに無理やり立ったり、歩いたりさせられた。また、一度帰ったのに、忘れ物をしたと取りに来たが、調査のため監視しているかのように思えて不愉快だった。	訪問した職員に事実を確認。利用者に不信を抱かせるような行動を取らないように指導。利用者には、管理者より謝罪した。